

感動一点の場

『親子馬』

1980年 小川原 脩 画



馬は、小川原脩の主要なテーマのひとつである。1940年代は農民たちとともに無表情で歩む姿、60年代には正面から見た顔だけがこちらに向かってくる群れを、また70年代には風雪にもがき耐える様子を描いている。ひとりの作家が描いたものなのだろうかと驚いてしまうほど、それらの作品から受ける印象はさまざまである。

本作は1980年、小川原が79歳の時のもので、これまでとは違う馬の姿が登場する。まばゆい緑の草原に、寄り添って立つ母馬と仔馬。優しい陽光が二頭を包み込み、温かく静かな時間が流れている。晩年の温かな眼差しで描かれた作品からは、目を細めて親子馬を見守る画家の姿が思い浮かぶ。

童謡「おうま」を思わせる、ほのぼのとした絵本の一頁に出てきそうな場面。あなたならどのようなストーリーが浮かんでくるだろう。親子でおしゃべりを楽しみながら見てほしい1点である。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

—砂地にすむハチ—

夏の暑い日、河川敷や開けた草地の砂の上で、エメラルドグリーンの眼をした黄と黒のシマ模様のハチが穴を掘っていたら、それはニッポンハナダカバチかもしれない。

このハチはいわゆる「狩りバチ」の仲間で、穴を掘って巣をつくり、獲物を狩って子に与える習性をもつ。子のエサはハエやアブなどで、親バチはそれらを襲って毒針を打ち、麻酔をかける。麻酔をかければ獲物の身動きを封じることができるうえ、新鮮な状態で子に与えられるというわけだ。親バチは子が成長しきるまで、かいがいしくエサを与え世話をする。大量の獲物を狩ることから、外国ではハナダカバチの仲間を牧場で飼育し、人や家畜の血を吸うアブの天敵として利用している事例もある。

生態系における上位捕食者であり、獲物が豊富にいる森や、広大な砂地といった多様な環境が必要不可欠なことから、良好な河川敷・海岸環境であることの指標昆虫の一面も持っている。しかし、近年では河川改修や水質悪化による砂の汚染などによって住処が失われ、なかなか見られなくなってしまった。このハチは人を襲って刺すことはない。もしも見つけた時は追い払わず、優しく見守ってほしい。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

■第1回 ふるさと探訪 「イワオヌプリに登って五色温泉を俯瞰してみよう」

かつて硫黄産業で栄えたイワオヌプリ周辺。人の営みはイワオヌプリにどのような変化をもたらしたのか、植物を切り口にひも解きます。

講師：村上 尚美 氏（自然ガイドツアー心和～cocowa～ 主宰） 日時：7月29日（土） 8時30分～14時

集合場所：倶知安風土館 対象／定員：小学生以上 先着10名

参加費：レクリエーション保険代 申込：倶知安風土館へ来館または電話（☎22－6631）

ふるさと探訪

411回



▲狩ったキンバエを運ぶニッポンハナダカバチ

展覧会のお知らせ

■常設展示

「小川原脩展 馬・犬・おおはくちょう」

会期：開催中～7月9日（日）

「小川原脩展 小川原脩ものがたり」

常に新たな芸術潮流を感じ取りながら、「何を描くか」にこだわり変容を続けた小川原脩。昭和初期から平成まで70年にわたる画業を、ひとつの物語を読み解くように紹介します。

会期：7月15日（土）～11月26日（日）※初日観覧無料

■企画展示

「小川原脩セレクション 根津夕景—1930's」

会期：開催中～7月9日（日）

「しりべしミュージアムロード共同展『おしゃべり美術館』

岩内・共和・倶知安・ニセコに点在する5つのミュージアムの共同企画展。今年は美術と文学の密接な関係に注目します。作品に込められた物語やドラマを、各館の設けたサブテーマを基にさまざまな切り口でご覧ください。当館は「豊かなイメージ～ものがたる絵」

会期：7月15日（土）～9月24日（日）※初日観覧無料

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン アート探訪〈みて☆きいて〉4

「ガウディとジュジョール～彩と造形のデュオ」

スペインの建築家ガウディのサグラダ・ファミリアは没後100年の2026年に完成が予定されています。その弟子ジュジョールもまたユニークな作品を残しているのですが・・・

日時：7月1日（土）14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（聴講無料）

■アート・シネマ館

「カミュー・クロードル」（1989年/166分/フランス（字幕））

彫刻家ロダンの弟子、モデル、恋人であったカミュー・クロードル。独自の創作と極限の愛の狭間で狂気に至った女性の姿が感動的。

日時：7月8日（土）13時～15時50分

お話し：柴 勤（当館館長）

会場：当館映像ルーム（無料）

■アート・トーク 「小川原脩この一点『群れ』

当館所蔵の小川原脩コレクション約700点の中から、展示中の一点を選び学芸員がお話をします。

今回は66歳の時の代表作「群れ」。

日時：7月15日（土）14時～14時30分 お話し：沼田 絵美（当館学芸員） 会場：当館第1展示室（聴講無料）

■造形活動ワークショップ 「うつしとるカタチ＜鋳造（ちゅうぞう）体験＞」

石膏（せっこう）の型へ溶かした錫（すず）を流し込んで、手のひらサイズの素敵な置物を作ります。

何ができるかは、お楽しみ。講師は倶知安在住の美術家、本庄隆志さんです。

日時：7月22日（土）13時～16時 会場：風土館研修室／美術館

対象／定員：小学生以上の児童・生徒とその保護者（2名1組） 先着10組 参加費：無料

申込：美術館へ来館または電話（☎21－4141）

■ミュージアム・コンサート 「小松崎健ハンマーダルシマー・コンサート」

ハンマーダルシマーは共鳴箱に張られた弦を木製のスティックで打つ中世ヨーロッパ起源の楽器。

郷愁を呼び起こす美しい音色を日本の第一人者・小松崎さんの演奏でお楽しみください。

出演：小松崎健さん（ハンマーダルシマー奏者）

日時：7月29日（土）14時～15時 会場：当館ロビー（無料）



小川原脩記念美術館 倶知安風土館

☎21-4141

☎22-6631

開館時間は9時～17時

（入館は16時30分まで）

7月の休館日

4日、18日、25日

10～14日は展示替えのため休館

美術館から

「ハルカヤマ芸術要塞」。小樽市・春香山山麓を舞台とする野外美術展です。今年も、森の中を散策しながら、点在する美術作品を楽しんで来ました。自然に溶け込むような彫刻。樹の幹を利用した巨大な立体作品。地面と一体化した焼き物。枝から吊り下げられた日本画。空を映し出すバケツの作品。地中から首を出す人形。至る所、遊び心に満ちています。

道内には、札幌芸術の森野外美術館や洞爺湖ぐるっと彫刻公園など、彫刻と自然が調和する素敵な場所がたくさんあります。そう、美術作品は美術館やギャラリーのものだけではないのです。倶知安でも・・・公民館の前庭にある母子像、気持ちしが安らぎますね。

館長 柴 勤